



三井海洋開発株式会社
2022年12月期 第2四半期
決算説明会

2022年8月12日





1. 事業の概況

2. 外部環境と今後の見通し

3. 決算概要

(注意事項)

当社の連結業績は、2021年度連結会計年度の期末決算より従来の日本基準に替えて国際財務報告基準(以下、IFRS)を適用しております。また通貨単位につきましても従来の日本円に替えて米ドルでの表示に変更となっております。

これにより本資料内では過年度数値について以下の取り扱いをしております。

- ・2020年度：IFRSベースに準拠(米ドル)
- ・2019年度以前：日本基準(日本円)の決算数値を各決算期末の対顧客電信直物相場の仲値で米ドルに換算

2018年：1米ドル=111.02円

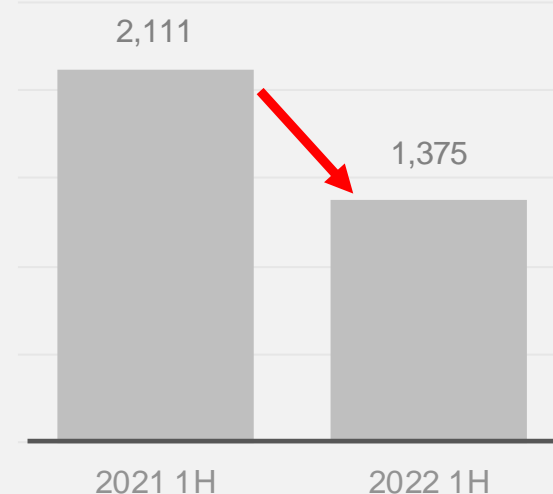
2019年：1米ドル=109.54円

2022年上半期：ハイライト

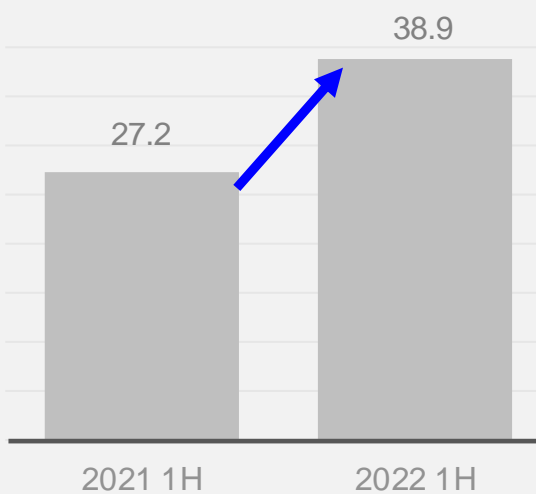
(前年同期比較)

(単位: US\$M)

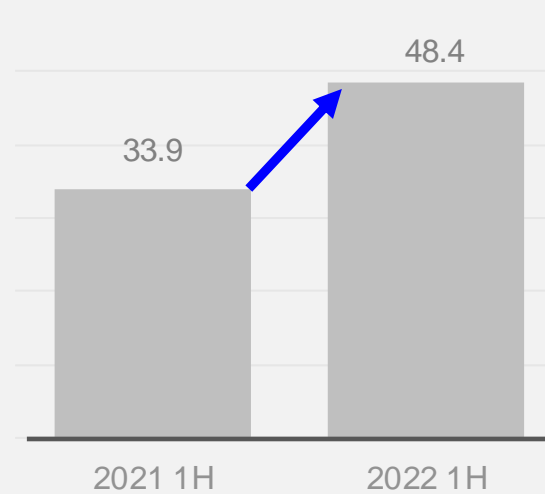
<売上収益>



<営業利益>



<チャーター事業収益>



- MV32、MV33等の建造工事が終盤に差し掛かるため、売上収益は前年同期比で減少。
- 一方で、Woodside Sangomar、Equinor Bacalhauを中心とした建造案件の進捗、追加工事代金の回収、及びチャーター事業の収益の積み上げなどにより、営業利益は前年同期比で大幅に増加。
- MV31 FPSO Guanabaraのチャーター開始が収益の拡大に貢献

2022年上半期：建造工事の状況(2022年6月現在)

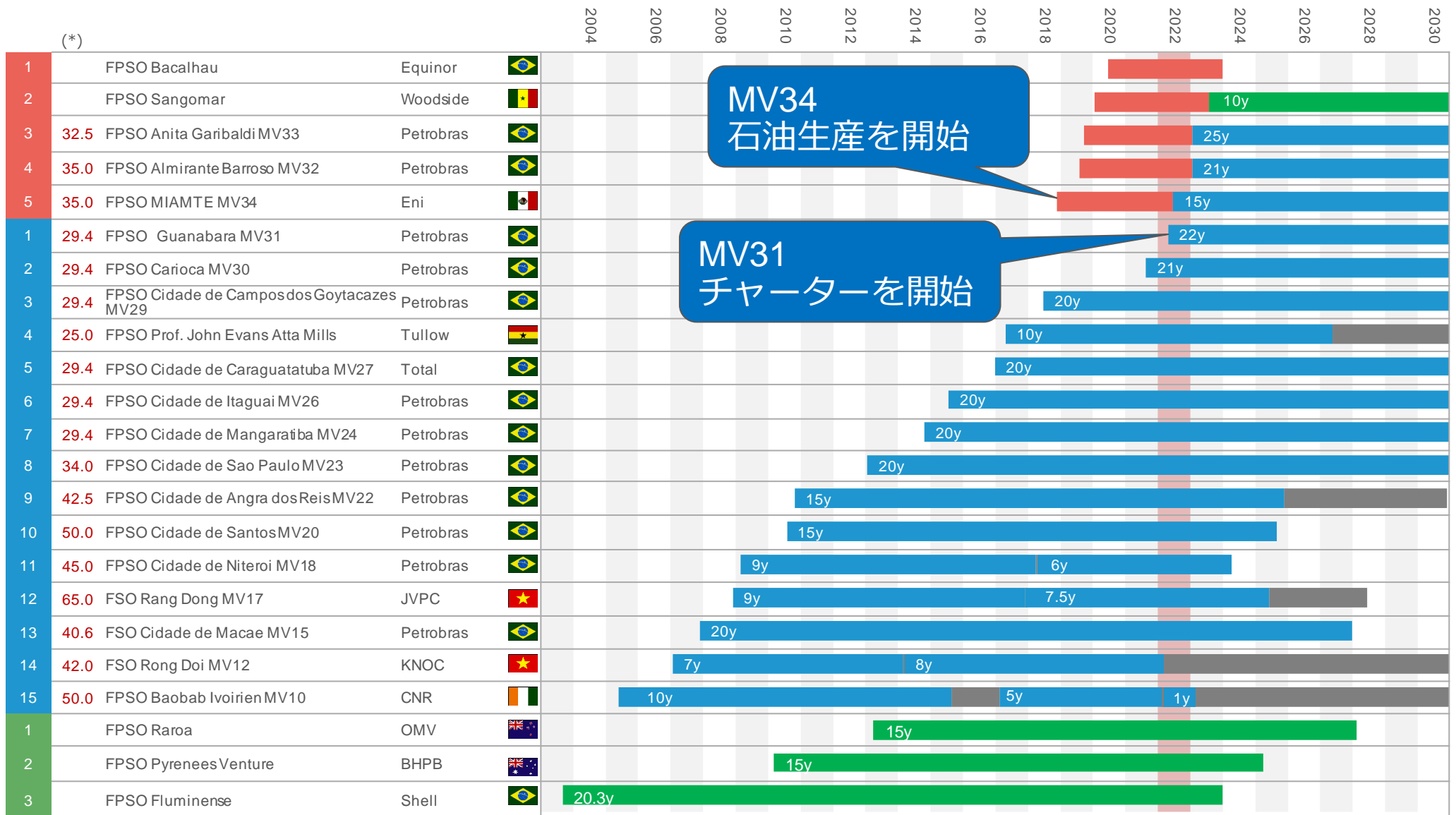
	FPSO MIAMTE MV34	FPSO Almirante Barroso MV32	FPSO Anita Garibaldi MV33	FPSO Sangomar	FPSO Bacalhau
顧客	Eni Mexico	Petrobras	Petrobras	Woodside	Equinor
契約形態	EPCI + Time Charter (15年+1年毎x5の延長オプション)	EPCI + Time Charter (21年)	EPCI + Time Charter (25年)	Purchase Contract + O&M (10年+1年毎x10の延長オプション)	EPCI + Short term O&M
引渡し (予定)	2022年	2023年	2023年	2023年	2024
鉦区	Area 1 Block	Búzios	Marlim	Sangomar	Bacalhau
所在地	メキシコ	ブラジル	ブラジル	セネガル	ブラジル
水深	32 m	1,900 m	670 m	780 m	2,027 m
貯油能力 生産量	700,000 bbls 90,000 bopd 75 mmscfd	1,400,000 bbls 150,000 bopd 212 mmscfd	1,000,000 bbls 80,000 bopd 248 mmscfd	1,300,000 bbls 100,000 bopd 130 mmscfd	2,000,000 bbls 220,000 bopd 500 mmscfd

MODECについて

EPC(I)/ チャーター、オペレーション期間

2022年7月現在

- EPC(I) 期間
- チャーター期間 (確定)
- チャーター期間 (オプション)
- オペレーション期間



(*) 当社グループ保有 (%)
持分法適用関連会社
連結子会社

2022年12月期：オペレーション・メンテナンス活動 進捗報告

オペレーション・メンテナンス活動 粗利

- メンテナンス作業はほぼ計画通りに進行し、費用を計上。
- 下半期は、新型コロナウイルス感染症の再拡大などのリスクは依然として残るものの、引き続き感染予防対策を徹底しながら、オペレーション・メンテナンス活動を継続予定。

(単位：US\$M)	上半期実績	下期予想	通期予想(Note)
オペレーション	1	25	26
メンテナンス	△80	△69	△149
小計	△79	△44	△123
将来損失引当/振戻し	38	36	74
合計	△41	△8	△49

(Note) O&M通期予想数値は、IFRSに移行に伴う一部SGAへの振替(US\$20M)を反映

FPSOの建造工事に携わる合併会社の設立



2022年8月5日に契約締結

- 東洋エンジニアリング株式会社とFPSOの建造工事に携わる合併会社の設立について契約を締結。
- これまでプロジェクト毎にFPSOの原油・ガス生産設備について協業してきた同社と、難度の高い大規模プロジェクト遂行に向けて協業形態を深化。
- 環境対応、低炭素・循環型社会実現に寄与する新規技術・商品開発にシナジーを見込む。



1. 事業の概況
 2. 外部環境と今後の見通し
 3. 決算概要
-

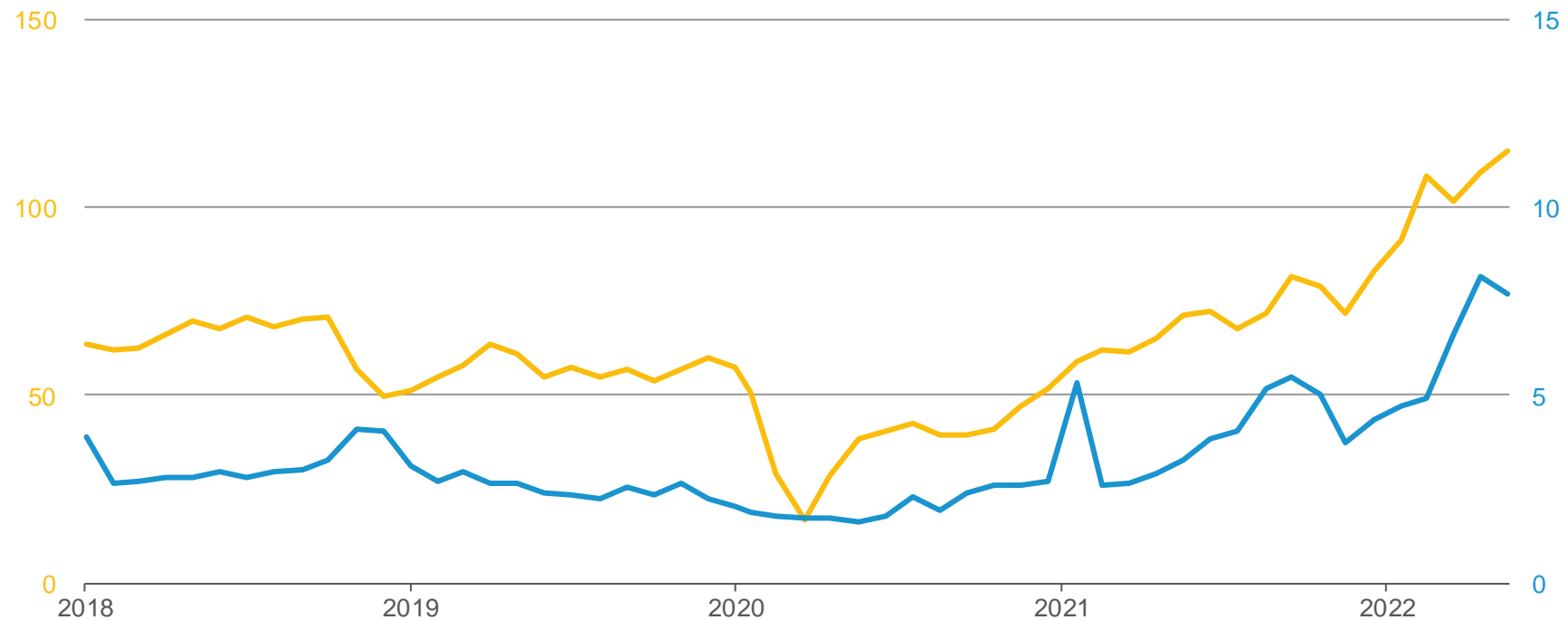
原油・天然ガス価格 (WTI/Henry Hub)

原油価格は、新型コロナウイルス感染症の流行に端を発する原油需要の低下により、2020年前半にはWTIが一時大幅に下落したものの、直近ではロシアによるウクライナ侵攻の長期化等に伴う供給不足の懸念により価格が高騰し、石油会社の開発姿勢にも影響が見られる。

原油・天然ガス価格 (WTI/Henry Hub)

米ドル/バレル

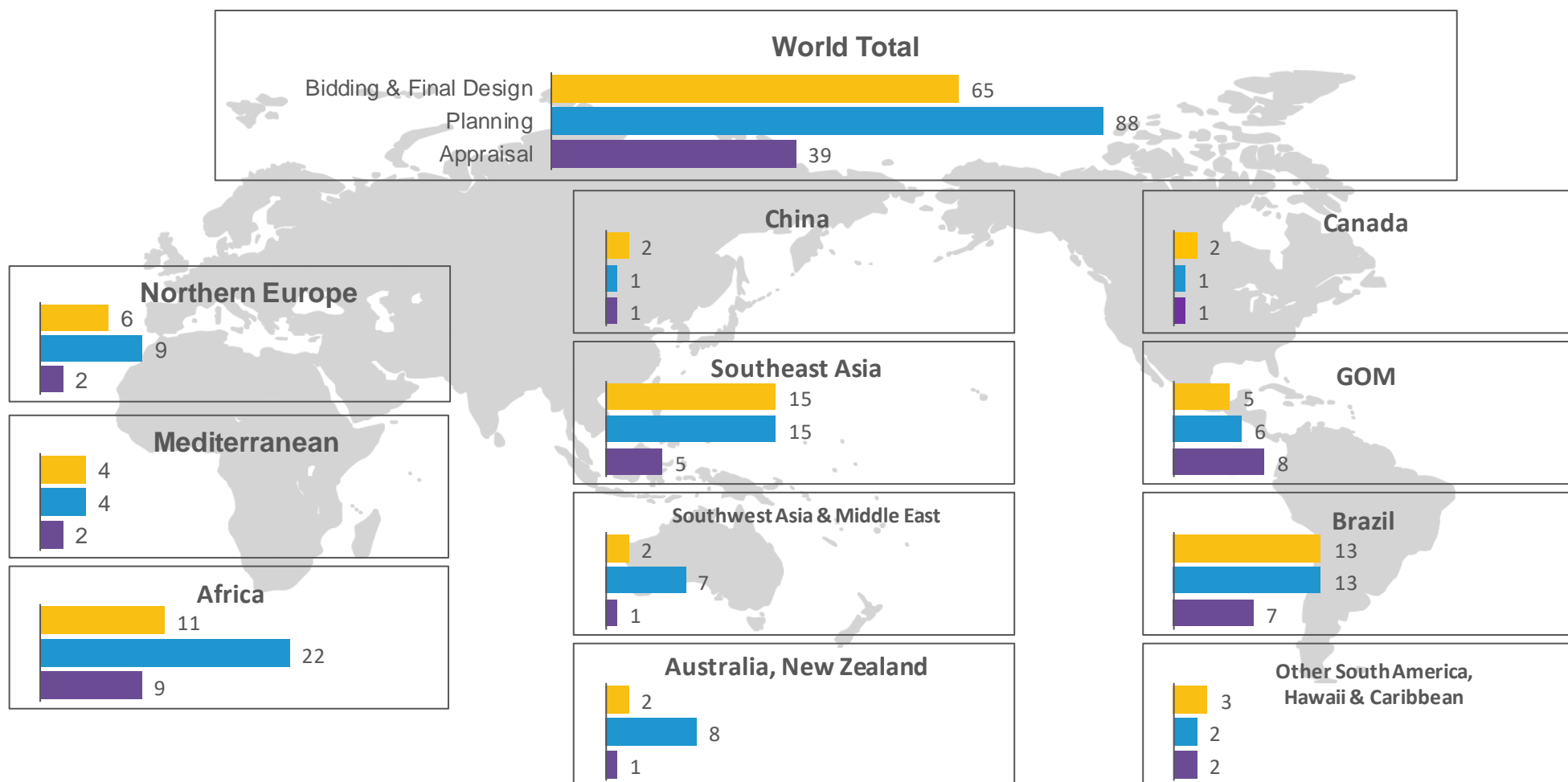
米ドル/百万BTU



Source: EIA

中南米、アフリカ、東南アジア海域における海洋油田の開発意欲は依然として高い

浮体式海洋石油・ガス生産設備の利用が予想されているプロジェクト数（2022年8月現在）

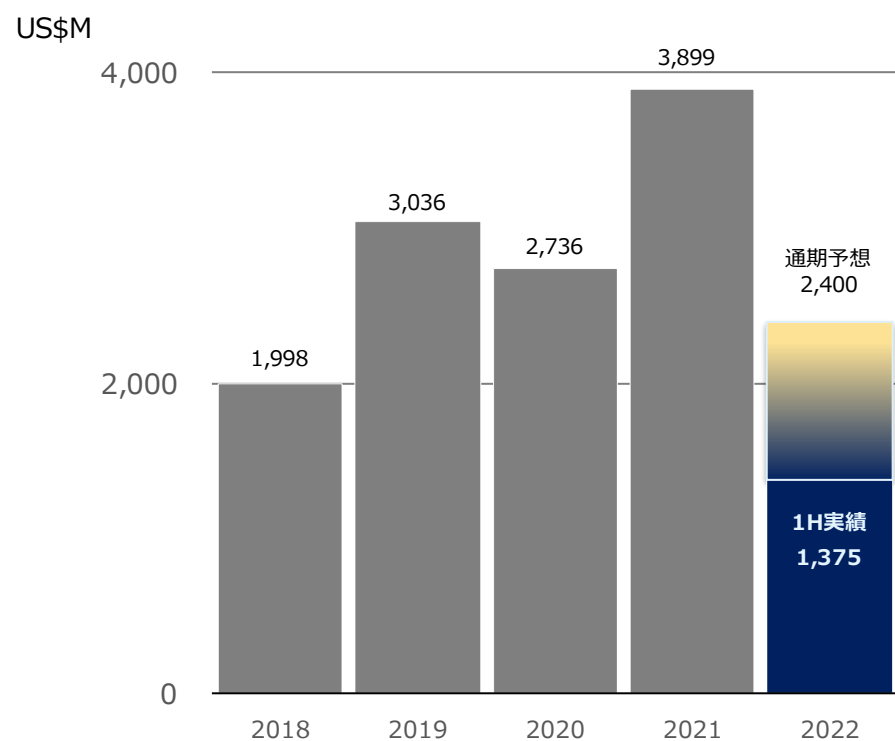


2022年12月期：業績予想

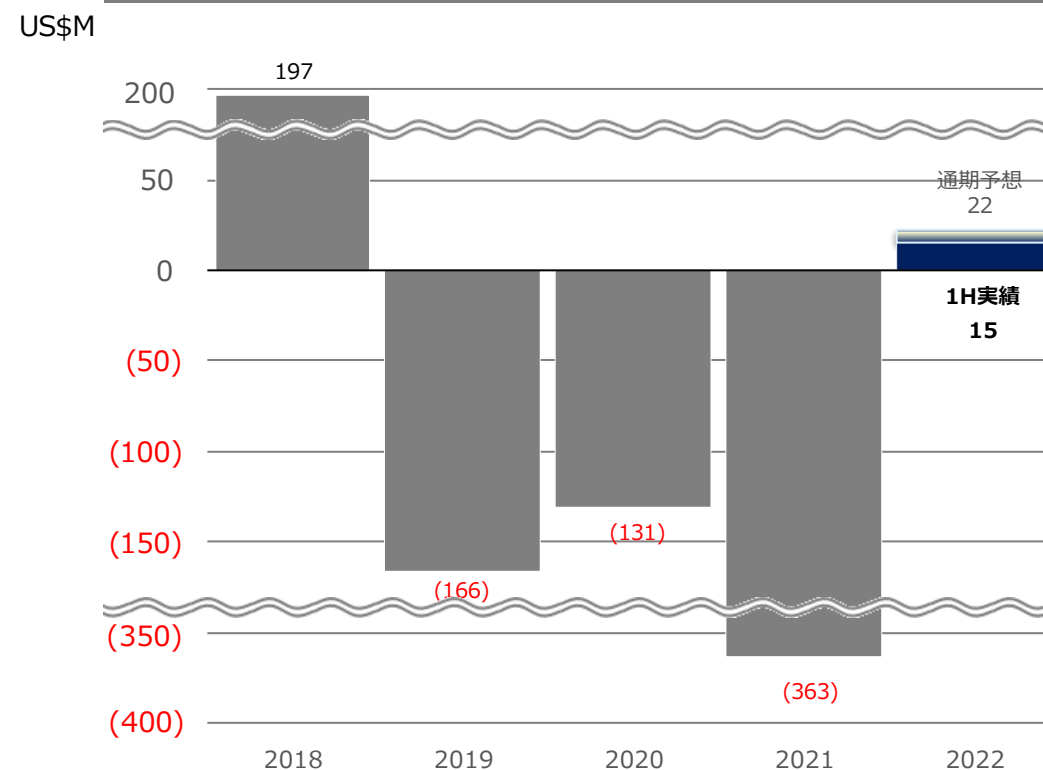
2022年度通期業績予想は維持

Woodside Sangomar、Equinor Bacalhauを中心とした建造案件の進捗による売上計上、及び追加工事代金の回収などもあり上半期は順調に進捗。今後、建造工事が終盤に差し掛かり、売上収益はスローダウンするが、チャーター案件による持分法投資利益や受取利息の積み上げにより、通期業績予想の達成を見込む。

売上収益



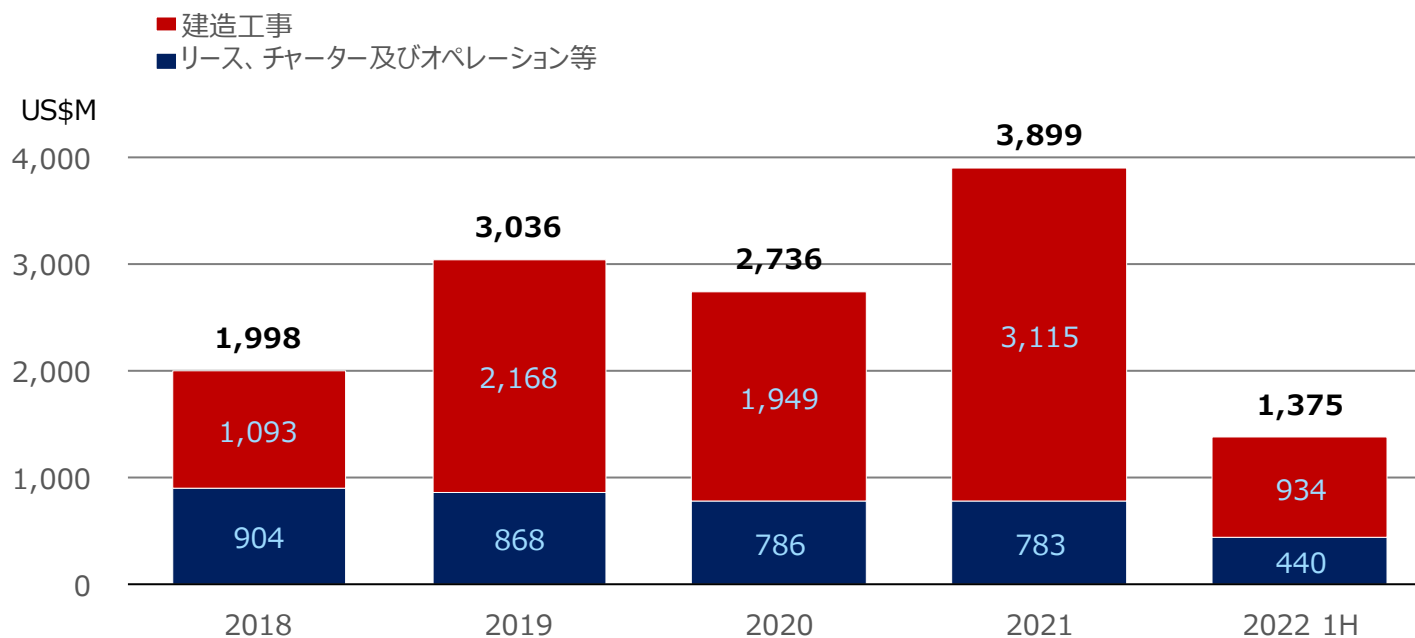
親会社の所有者に帰属する当期利益(損失)



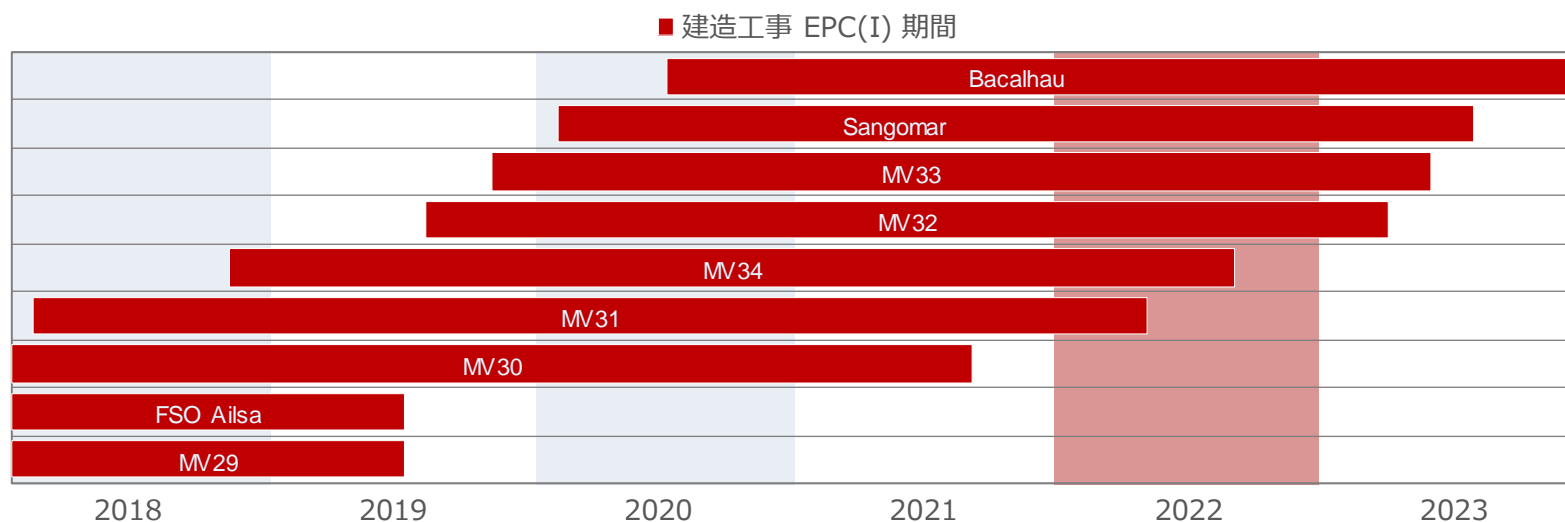
1. 事業の概況
2. 外部環境と今後の見通し
3. 決算概要



売上収益



- 既存建造工事が終盤に差し掛かるため売上収益はスローダウン
- 新規建造プロジェクトの受注に注力



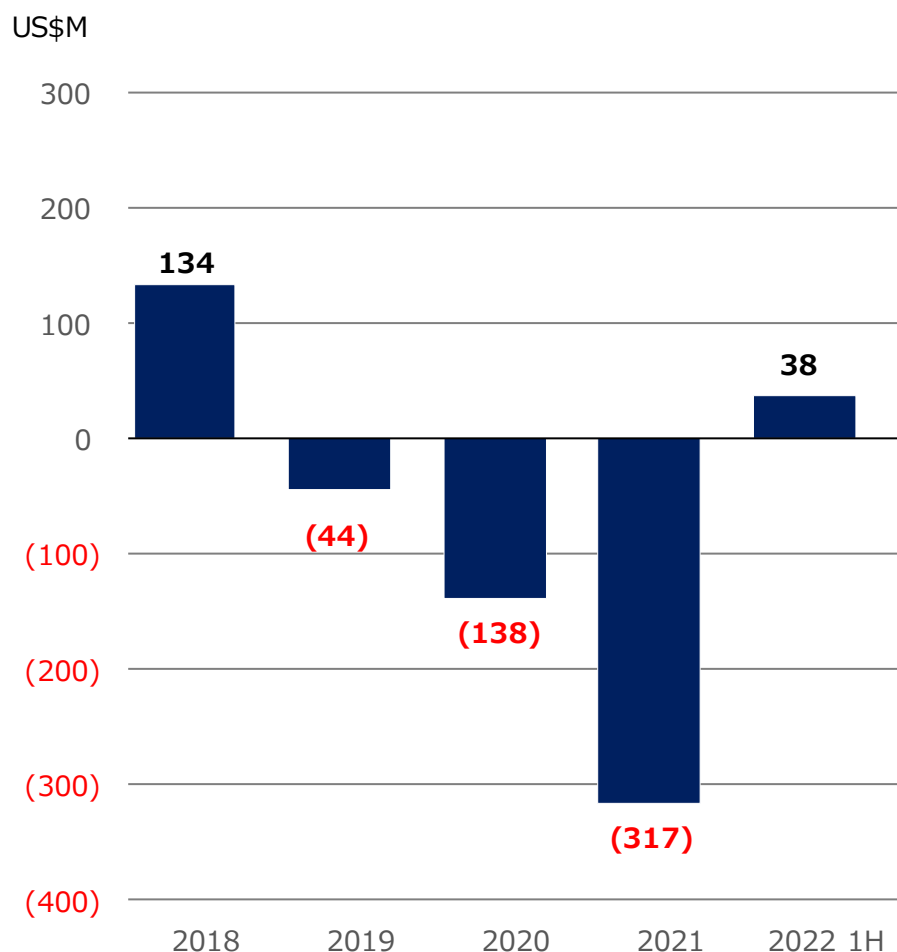
2022 1H
建造工事売上明細
(US\$M)

Bacalhau	: 300
Sangomar	: 300
MV32	: 100
MV33	: 100
Others	: 100

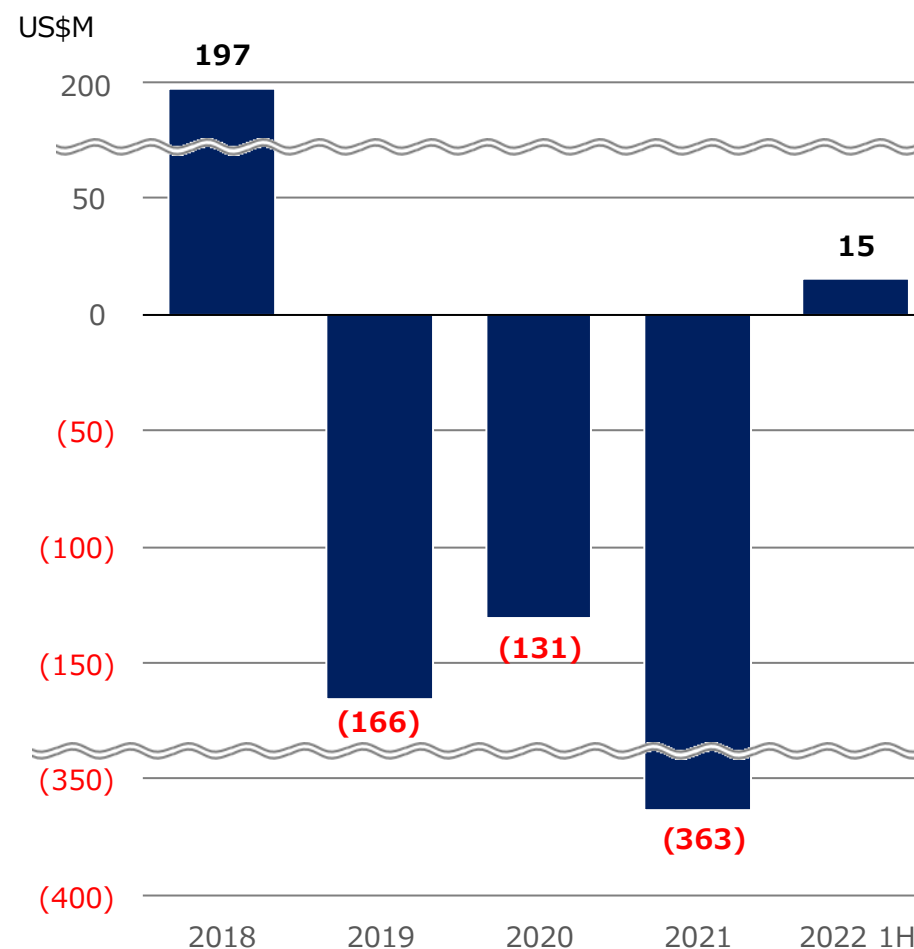
営業利益・親会社の所有者に帰属する当期利益

建造工事の遅延など新型コロナウイルス感染症の事業への影響は依然として残っているものの、2018年度以来の通期黒字化に向けて1-6月期での利益を確保

営業利益(損失)



親会社の所有者に帰属する当期利益(損失)

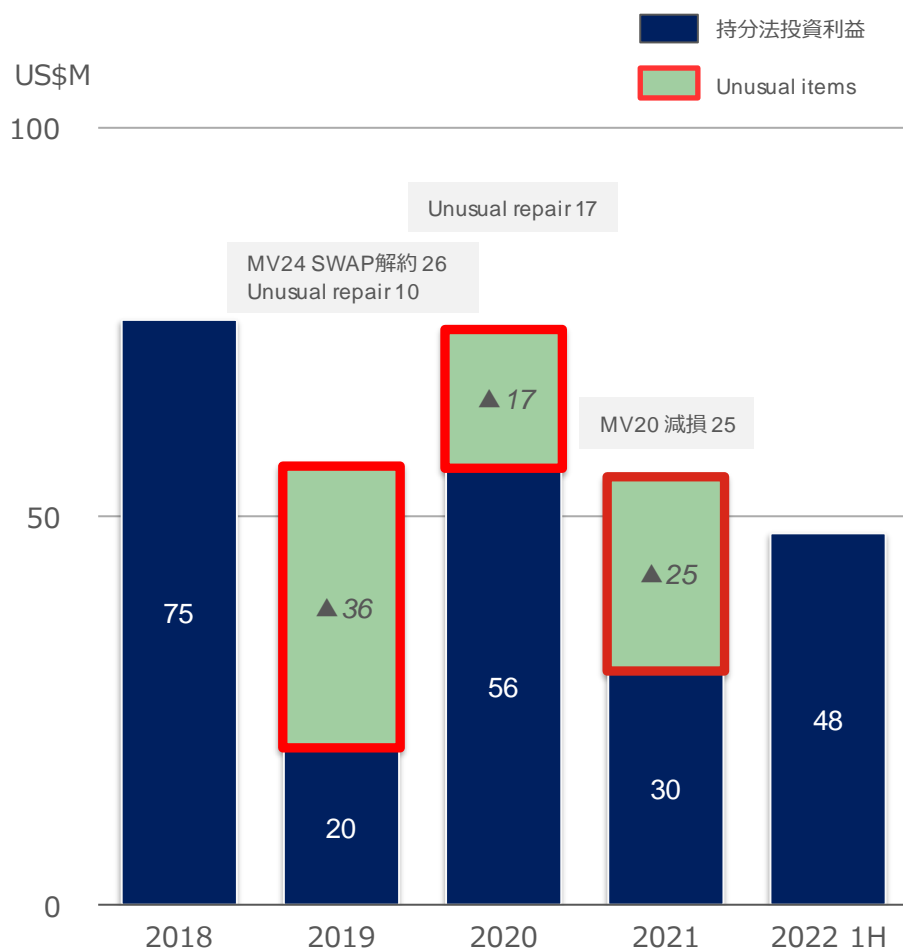


(Note) 2020年度よりIFRSに移行し、持分法投資利益等を営業利益として計上

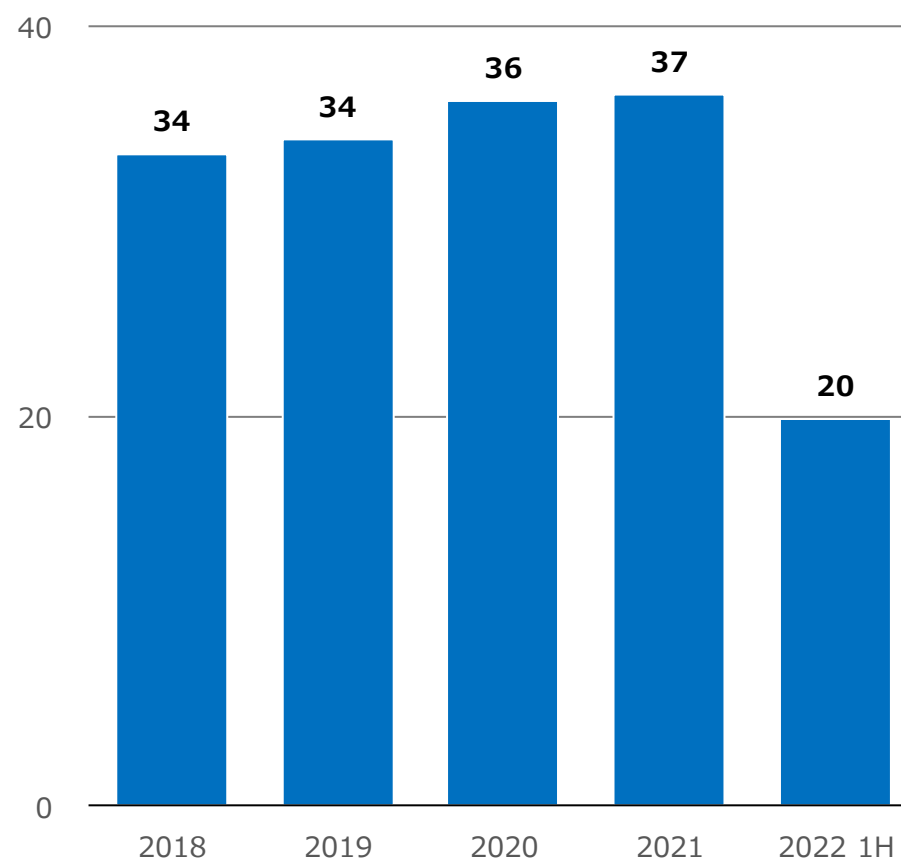
持分法投資利益・受取利息

昨年度のような予想外の長期操業停止や減損はなく順調に推移

持分法投資利益(チャーター関連会社)

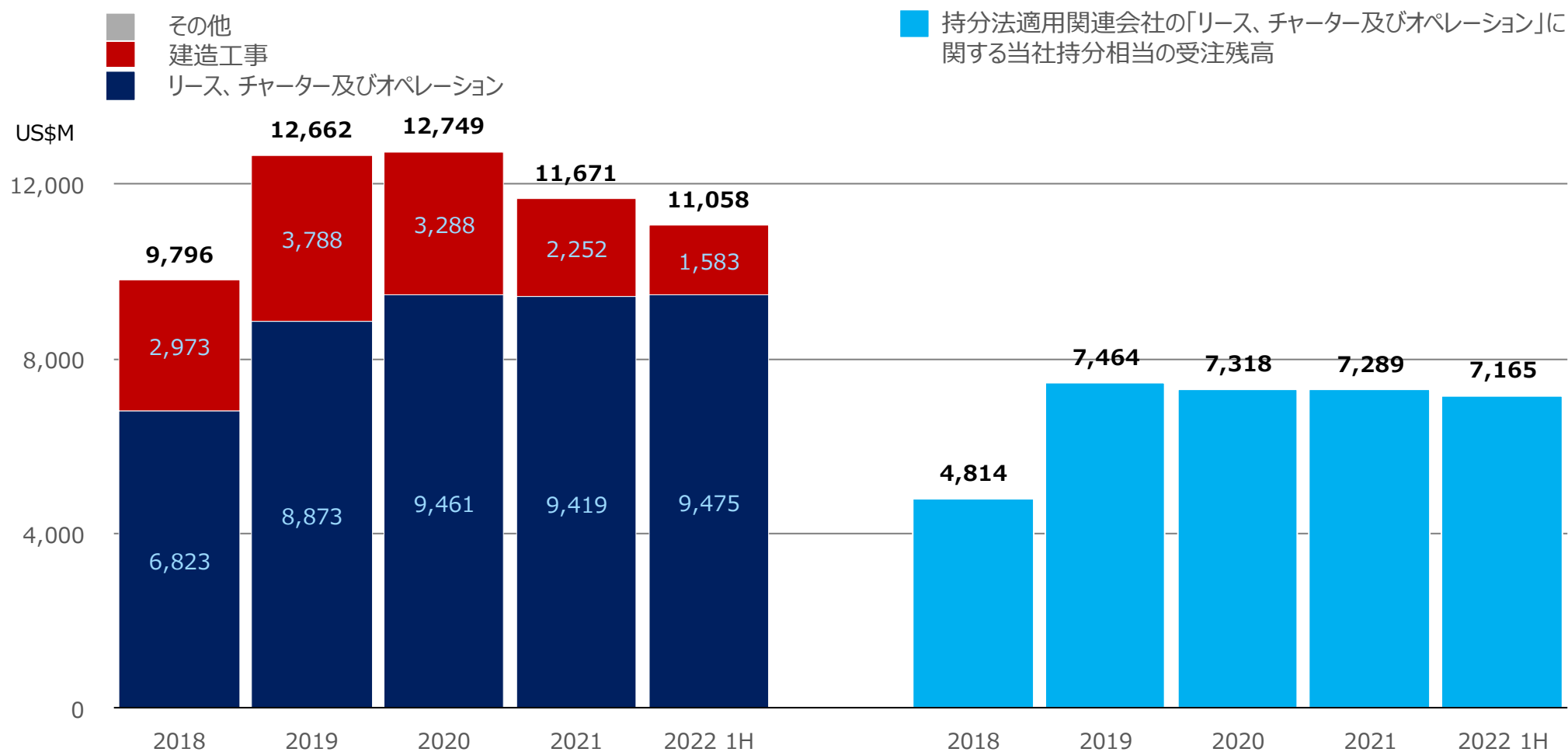


受取利息(チャーター事業関連)



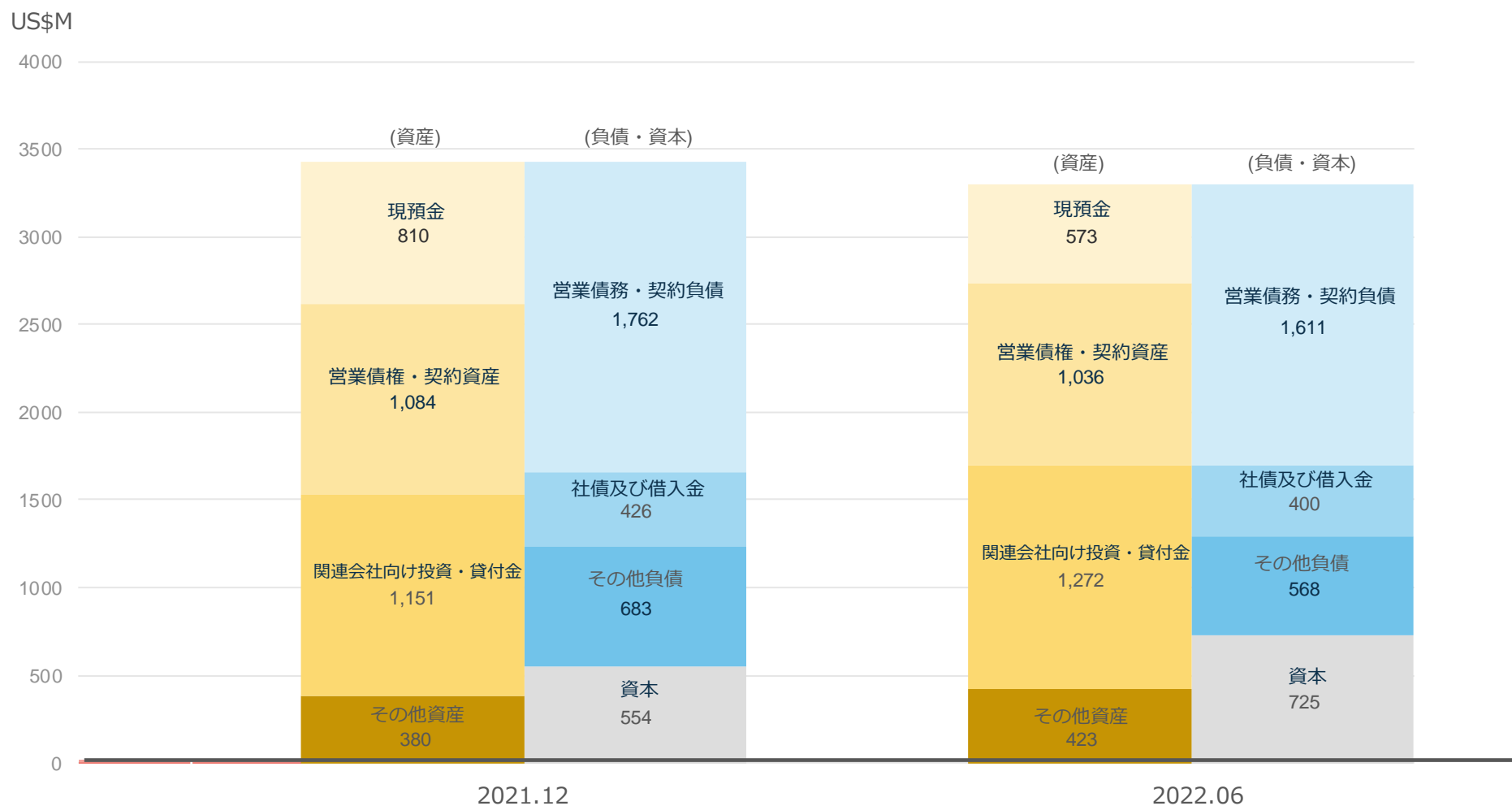
受注残高

- チャーター・O&Mの受注残高は長期契約により高位で安定的に推移
- 建造工事の受注残高は、既存工事の進捗により減少・新規建造プロジェクトの受注に注力



貸借対照表

- 建造プロジェクトの進捗に伴う営業債権・債務および契約資産・負債の変動により、運転資金として滞留する現預金残高が減少
- 米国の金利が上昇したことにより、金利を固定するためのスワップの評価に関わる「その他の資本の構成要素」のマイナスが解消し、親会社所有者帰属持分比率が前年末から改善





Thank you